

# 認知症薬の処方 適切に

## 長尾氏セミナーで訴え

一般社団法人抗認知症薬の適正処方を実現する会（兵庫県尼崎市）は2月7日、認知症薬をテーマにした第1回特別セミナーを都内で開催した。医療従事者や認知症患者の家族など約180名が聴講した。



人の実  
法薬を  
社団症方  
一般認知和  
抗認処る  
適正す長  
現理事  
などを行  
う。



白土綾佳理事

薬の不適切な増量による副作用の事例収集や啓蒙活動などを行っている。

同会の理事でもある笠間市立病院の白土綾佳医師は、抗認知症薬を治療に導入する際に、有効成分の含有量が低い規格の薬を継続して処方すること

応じた増量が既定の用法とされている。例えばアリセプトの場合は、初めの1〜2週間は消化器官の副作用が起らないことを確認するため、最低用量の3ミリグラムの投与から始める。その後、5ミリグラム、10ミリグラムと増量することが定められている。この際、患者によっては3ミリグラムで認知症の症状が緩和しても、5ミリグラムに増量した段階で副作用が強く出してしまうことがある。

白土理事が診たレビー小体型認知症患者の例では、最少量投与の段階で「患者の実態に合わない」が、その後の増量で認知機能の急激な低下や失禁・歩行障害など明らかなる「作られた病」と訴えた。

また、認知症の種類に当分の主治医は「最高量まで増やす決まり」であるが、異なること、病状は流動的であることから治療の薬剤の減量の訴えを拒否していた。家族が主治医を変更したことで休薬に至り、患者の症状は和らいだという。

「作られた病」による影響の実例や想いを伝えてほしいと呼び掛け

同会は、事実上増量が強制されている抗認知症薬の使い方に関心意識を持つ医師が中心となり昨年9月に結成された。理事長は長尾クリニックの長尾和宏院長。抗認知症

知症治療薬は投与期間に議論を展開。アリセプトなどの抗認知症治療薬は投与期間に

ると、干潮の砂浜に仮死状態になった魚が打ち上げられる。今年も島のおぼさん達が、朝から遠浅の海岸に

審査に通らないことがあり、患者の状態に応じて適切に判断するべき。本来、これは医師の処方権として認められて「患者の行為である」と主張。また、これは医師の処方権として認められて「患者の実態に合わない」が、その後の増量で認知機能の急激な低下や失禁・歩行障害など明らかなる「作られた病」と訴えた。

また、認知症の種類に当分の主治医は「最高量まで増やす決まり」であるが、異なること、病状は流動的であることから治療の薬剤の減量の訴えを拒否していた。家族が主治医を変更したことで休薬に至り、患者の症状は和らいだという。

「作られた病」による影響の実例や想いを伝えてほしいと呼び掛け

かたち  
み

医療法人鳥居白川会タカヤマ診療所  
ドクターズ鎌倉診療所  
看護小規模多機能型サピスゴ  
女子大  
東青  
島と  
スボ  
学理  
事。

と、干潮の砂浜に仮死状態になった魚が打ち上げられる。今年も島のおぼさん達が、朝から遠浅の海岸に

京育ちの私だっただけで例外ではない。できるだけ、寒い所肉と臓器を動かすことで体には行かないようにして、温を上昇させて活動性を上げる。関東の拠点を、温暖な